

令和4年度 岡谷市総合教育会議 会議録

以下のとおり、会議内容について報告いたします。

-
- 会議名 令和4年度 岡谷市総合教育会議
- 日時 令和5年2月6日（月）午前9時00分～10時40分
- 場所 市役所9階大会議室
- 出席者 構 成 員 今井竜五市長、岩本博行教育長、草間吉幸教育長職務代理者、
太田博久教育委員、高木千奈美教育委員、藤森一俊教育委員、
小平陽子教育委員
- 市長補佐 小口道生副市長
- 事務局 酒井企画政策部長、仲田企画課長、清水政策推進主幹、藤森主査
- 補助執行 白上教育部長、両角教育担当参事、濱主任指導主事、
伊藤生涯学習課長、小松スポーツ振興課長、西山教育企画主幹、
横内学校教育主幹
- 説 明 者 帯川健康福祉部長、高橋子ども課長、牛澤保育主幹
- 議 題 1 岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）について
2 川岸学園構想（案）について
- 配付資料 ①岡谷市保育園整備計画中期計画策定について
②岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）【概要版】
③川岸学園構想（案）（附属資料1～7）
-

開会

企画政策部長 皆さんおはようございます。ただいまから令和4年度岡谷市総合教育会議を開催いたします。はじめに今井市長よりご挨拶申し上げます。

市長あいさつ

市長 本日はお忙しい中、岡谷市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。教育長並びに教育委員の皆様には日頃から岡谷市の教育の向上と発展に多大なるご尽力をいただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

本日の議題は2つであります。一つは、現在、市で策定を進めております「岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）」について、二つ目として、教育委員会にて検討を進めていただいている「川岸学園構想（案）」について協議をお願いいたします。

この会議を通じて、市と教育委員会の連携をさらに深め、第2期岡谷市教育大綱に掲げる基本理念であります、「自立し、共生し、創造性溢れる岡谷のひとりづくり」の実現に向けて、努めてまいりたいと考えておりますので、活発な意見交換をお願い申し上げます。本日はよろしく願いいたします。

企画政策部長 続きまして、岩本教育長よりご挨拶をお願いいたします。

教育長あいさつ

教育長 おはようございます。教育委員会を代表して、一言ご挨拶させていただきます。市長さんをはじめ、市長部局の皆様には、日頃より多大なご理解、ご支援をいただいておりますこと、心より感謝を申し上げます。

令和4年度も終盤に差し掛かり、小中学校では巣立ちの春を迎える卒業式と学期末が近づいてまいりました。一方、新型コロナウイルスへの対応は3年を経過し、1日も早い収束を祈りながら、子どもたちの健康と安全に留意した学校運営に努めているところでございます。

そうした中、本日の議題では、輝く子どもの育成に向けた、保育園整備計画の策定状況などのお話とともに、教育委員会からは、次の学校施設整備に合わせた、新たな学び舎の創出をめざす構想案について、説明をさせていただきます。

名称を川岸学園構想としております、この構想は、これまでの教育委員会の会議におきまして、継続した議論や検討を重ね、川岸地区への小中一貫教育の導入、或いは、幼保小中連携の拠点となる、新たな学び舎の創出をめざす取組として原案を策定させていただきました。

また、本日の二つの議題は、ともに大きく関連する内容となりますので、地域の子どもたちの新たな育ちと学びの環境づくりに向け、闊達なご意見をいただければ大変幸いです。本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

企画政策部長 それでは、本日の会議に入らせていただきます。本会議の運営規則に基づきまして、以降の会議の進行につきましては、小口副市長にお願いをいたします。

議題1 岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）について

副市長 次第に沿って進めてまいります。会議の終了時刻は概ね10時30分を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題の（1）岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）について、健康福祉部より説明をお願いいたします。

【健康福祉部長より説明】

現在策定を進めております「岡谷市保育園整備計画中期計画～魅力と活力ある保育園づくり～」についてご説明をさせていただきます。

平成24年11月に岡谷市保育園整備計画を策定し、平成30年4月に信学会による東堀保育園を開園し、令和2年12月には西堀保育園を開園、併設する発達支援センターを令和3年4月に開設し、前期計画での整備が終了したところでございます。

現在、次期整備対象地区や整備方法等を定める中期計画の策定に向け、今年度はこれまでに5回の岡谷市子ども・子育て支援審議会を開催し、審議を進めてきているところでございます。

また、令和4年12月21日から令和5年1月9日までパブリックコメントを実施し、広く意見を募集するとともに、本日までに岡谷市保育園保護者会連合会や西部地区4園の保護者説明会を開催してきたところであります。

これから説明いたします「岡谷市保育園整備計画中期計画策定について」は、岡谷市子ども・子育て支援審議会における計画策定にあたり使用しました資料であり、整備地区と整備園、また、整備方法の選定の経過がわかる内容となっております。

以下、資料に基づき説明。

(資料①) 岡谷市保育園整備計画中期計画策定について

(資料②) 岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）【概要版】

副市長 ただいま説明がありました、岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）につきまして、意見交換を行ってまいりたいと思います。最初に岩本教育長先生ご意見、ご感想ございましたらお願いします。

教育長 これまでも教育委員会と子ども課と一生懸命色々な点について論議をし、両方の思いが一致した中身となっていると思います。

学校教育の面からも幼保小の連携を図っていくという点は、これから非常に大事になる点であり、川岸学園ということで、幼保、そして小、中、この3つが一緒になってやっていくということの意義は大変大きいと思っております。

本日説明をいただいて、改めて、着実に一步一步進めていかなければいけないと思ったところでございます。

草間職務代理 前期に東堀と西堀を実施して、今、中期に来ているということでもよろしいですか。

魅力ある保育園づくりということで、目的と実施の内容、保育園がどのように配置されているのか、また、ポートフォリオ分析によって今の保育園の現状がよく理解できました。この保育園整備が地域の母親のためになり、地域の住みよいまちづくりにもなるのだと思いました。

その中で質問ですが、この中期計画には年度やスケジュールが入っておりません。これはあくまでも教育委員会との整合性や連動等を考えていくということでもよろしいでしょうか。

健康福祉部長 概ねこれまでの経過でいきますと、一つの園に5年はかかるということがありますので、大まかにはそのぐらいの年度で教育委員会と連携しながら取り組んでまいります。ここでは年度を明記しておりませんが、およその目安については計画の本文の中で示していきたいと考えております。

また、進み具合によって次期計画の策定をしていくというような段階になってまいります。

草間職務代理 そうしますと、これは教育委員会と連携し、西部地区の保育園整備計画を進めるということでもよろしいですか。

健康福祉部長 教育委員会でも「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」の次期計画を策定する時期となってまいりますので、私ども市長部局も整合を合わせながら、一緒に取り組んでいきたいと考えております。

草間職務代理 素晴らしい計画ですので、実現に向けて両方で協力し、ぜひ実現していただきたいと切に願います。

健康福祉部長 ありがとうございます。

太田教育委員 時代背景、社会構造の変化、それから岡谷市の今後の将来の変化ということも見据えた上での大きな方向性ということで、現状の中で集約をするということではなく、岡谷のこれからの将来を担っていく子どもたちの、より良い成長に向かっての非常に大きな可能性を感じさせていただく案だと思っておりますので、しっかりと進めていくことに、私も一教育委員として協力をしていきたいと改めて感じさせていただきました。

教育委員会として、この案との大きな関わりは、幼保小との連携というところで、これは今、おかや絹結プログラムということを中心にし、それぞれの学校でしっかりと幼保から小、そして中、という義務教育に向かってつなげていくということに取り組んでいると思っております。そこの連携というものをより強化をしながら、この方向性をより良いものにつなげていくというところに微力ではありますが、ぜひ私も一委員として尽力をしていきたいと感じさせていただきました。

また、多様化する保育ニーズへの対応ということが挙げられています。資料で見ますと、例えば、未満児保育のニーズの高まりであるとか、長時間保育のニーズの高まりということで、色々な保育ニーズが出てきていると思っております。これまでも地域の皆さんや住民の皆さんへの説明、それからパブリックコメントの募集等もなさってきていると思っておりますが、これから進めていくにあたって、よりきめ細かく、ニーズというものを把握していただいて、完全ということとはなかなか難しいかもしれませんが、1人も取り残してはいけないという姿勢を維持することが大事だと思います。

資料の中で出てきていませんが、今は土日が休みでないというご家庭も沢山あろうかと思っております。そういったことも含めて、きめ細かくニーズを拾っていただき、できるだけそれに応え得る、そういう形が進むことで、より良く、より通わせやすく、子どもにとっても、それぞれの家庭や保護者の皆さんにとっても、こうなってよかったなあというように思っただけのような形を目指していければと改めて思っておりますので、そのような点も観点として、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

高木教育委員 最初に一つお聞きしたいのですが、全市的に、これから小学校の通学区域に1か所の公立保育園を配置ということで、さらにそこへ集約していく、そしてそれを認定こども園として考えていく、その中の第一段階として、まず、西部

地区の保育園の構想があると考えてよろしいですか。

健康福祉部長 全市的に、そのような方向性を持っていきたいと考えておりますが、通学区に1つというのは、子どもたちの人数がだんだん減っていく中で、数的には集約できるという考え方が大原則にあります。ただし、地域によってそれぞれの地域の資源や特色、配置も違いますし、私立の保育園があったりする状況もそれぞれ異なっています。その辺はしっかりと地域の特性を踏まえた上で、どんなものがそこに合っているのかということころは、その都度選定しながら、子どもたちにとって一番いい施設整備をしていかなければいけないと考えておりますので、その辺も合わせて、教育委員会ともしっかり連携をさせていただくとともに、アドバイス、ご指導をいただければと思います。

高木教育委員 西部地区の構想というのが、全市的に見ても本当に先進的な取組になっていくと思います。全国的に見ても先進事例が本当に少ないということで、色々な困難もあるかと思いますが、子どもたちの新しいこれからの時代、コロナ禍を乗り越えてきた子どもたちの成長、そして地域の皆さんと一緒に一つになって地域を活性化していくということを考えたときに、非常に有効な保育園構想であると思います。

困難であると思いますが、一つ一つ丁寧に時間をかけて、皆さんで取り組んでいかなければいけないことだと思えます。

藤森教育委員 様々な視点から評価、検証という形で、ポートフォリオの分析も交えていただきながら、方向性としてどのようにまとめていくかということ、非常にわかりやすくまとめていただいていると思います。将来的な方向性としては、私としても大変協力していきたいと思えます。

保育園については市長部局であり、小中の義務教育は教育委員会という形で、所管が分かれておりますが、今日の会議の中でも、それぞれの立場の話を聞いている中で、本当にしっかりと連携しながら、この計画を進めていただいているということもわかりましたので、これから幼保小中ということで連携がさらに重要になってくる中、庁内の部門間の風通しの良さというところもしっかりとやっていただき、我々も教育委員として協力をしていきたいと思っております。

少し現実的な質問を一つ。まだ計画の段階ですが、西部地区ということで、今4つの保育園の名前が具体的に挙がっています。その中で、川岸地区の保育園というのが3園、もう一つは成田保育園が入っていますが、成田保育園は私の理解が正しければ、旧岡谷小学校区の子どもさんも比較的近いということで利用率が高かったと思います。そしてご承知のとおり、岡谷小と田中小の統合によって、かつては西部中学校に通っていた岡谷区の生徒さんは、今は南部中学校に通い、西部中学校には来なくなっている状況です。また、近隣のあやめ保育園は充足率が100%ぐらいで子どもも多いという前提の話があり、将来的な構想として、幼保小中一貫という位置付けの園になっていく中で、成田保育

園も合わせて集約された場合、4ページの保小連携位置図を見ると、川岸小学校区の東側から岡谷田中小学校区の西側の辺りについて、私立の幼稚園や保育園はあるが、公立の保育園については空白地帯のようになってしまっているのではないかと思います。まだ計画の段階なのであまり具体的なお話は結構ですが、その辺について何か懸念されていることや、保護者の皆さんからの意見も今後集約されていくような予定はあるのでしょうか。

子ども課長

成田保育園につきましては、川岸小学校、西部中学校へ進むという園児たちがほとんどという状況がありましたので、西部地区、川岸小学校との幼保連携というような形の中で計画を立てさせていただいたという部分がございます。川岸地区、西部地区におきましては、私立の幼稚園・保育園も存在していないという部分もあり、そういったところから幼保連携型の認定こども園を設置していくというようなところを考え、計画の中に盛り込ませていただいたという部分がございます。

成田保育園の保護者説明会を行い、保護者の方からは、その辺につきましてもご質問をいただきましたが、実際に集約していくというようになった時、どこの園を選ばれるのかというようなところは、保護者の方のお考え等もございますし、保育園については、市内全域どちらの保育園でも受け入れをしていくということになっておりますので、そのような中で吸収をしていけるというように現時点では思っております。

藤森教育委員

ありがとうございました。

小平教育委員

分析がしっかりされた説明をいただいたと思います。教育委員会での会議の時も毎回思いますが、分析と資料作り、シミュレーションがしっかりされており、少子化ということに対して、しみじみと現実的なものとして感じてきております。10年後、20年後の子どもたちの人数の様子などは、他人事ではなく、本当にこの岡谷でも結構な問題であると常日頃感じておりました。

そのような中でこの案が出てきたということは、本当に素晴らしい解決策というか、ピンチをチャンスにしているというか、こんな素晴らしい構想ができるんですねというような形で、皆さんと気持ちを共有してきております。

教育委員会のジャンルでは、子どもたちがどのように育っていくかということにすごく焦点を当てていまして、先生方が、絹結プログラムであるとか、かけ橋期という小学校1年生における、小一プログラムとか、その辺りの問題に対し、チームを組んで、どのように解決していくかということプログラムとして考えてくださっていることに関しては、いつも安心してとらえておりました。岡谷市は、子どもに対するそういう対応が素晴らしいと日頃思っております。

2ページで、今の問題についてうまく表にさせていただいておりますが、やはりこの変化の激しい時代を迎えて、子どもたちがこれからどんな力が必要かということ、これからの時代子どもたちがどういうふう創造性を高めていくの

かということは、私も日々、創作というような仕事に携わっているため、いつも気をつけて注視しております。

これから保育園、幼稚園に入る子どもたちは、デジタルネイティブという世代ですので、子どもたちに色々な選択肢を与えられていけるのかと、大きな視点でそこは問題であると感じておりました。そのような中、川岸地区では、人間関係がどんどん狭まっていくのではないかという問題を感じているところに、今回の計画ができるということは、子どもたちの未来に対して、良い効果を期待できるのではないかと考えております。

先ほど、太田委員さんからも出ました、これからの保育ニーズということに関しては、共働き家庭であるとか、皆さんそれぞれ事情が昔とはちょっと変わってきているのかなと考えております。

信学会東堀保育園であるとか、西堀保育園があるエリアは、最初の計画でも素晴らしい保育園ができているなということを感じておりましたが、新しく川岸エリアがこのような形の取組をしていくということで、逆に川岸エリアの方が人気が出てしまうのではないかとということも考えておりましたが、エリアを越えて、保護者の方たちが、子どもたちをどういうふうに預けられるかということも考えられるということは、少し安心しております。

保育ニーズについて質問ですが、保育ニーズというのはこれからどのようにあるととらえられて計画されていますでしょうか。

子ども課長

保育園整備計画の概要版にも書かせていただいておりますが、子ども課として、今、保育ニーズを把握させていただいている部分につきましては、もう数年前からになりますが、未満児保育に対するニーズ、長時間保育に対するニーズというものが非常に高まっているととらえております。これは保護者の多様な働き方というようなところに、こういったニーズの元があるのではないかと考えております。

市内の保育園におきましては、未満児保育をしていない保育園としている保育園が両方ございますが、保育園整備計画の中では、最終的には全園にてこういったサービスは展開していきたいと計画もしているところでございます。主な部分につきましては、そういったところでございますが、今後もしっかりと保護者の方からのお話をしっかりお聞きをしながら、先ほど太田委員さんからもいただきましたが、きめ細やかな保育ニーズに対応できるようにしていきたいと考えております。

小平教育委員

しっかりとリサーチもしていただいているようで、安心しております。

それで、やはり長時間保育ということで、小学校の後で預けているお母様方とかの話をお聞きすると、皆さん色々なプログラムを用意して、読書、イベント、読み聞かせなど、何かしら考えていらっしゃると思います。また、長時間預けるときには、保護者は色々なことを吸収してきて欲しいと考えていると思いますので、その辺もまた、民間の力で協力できるような形を上手くまとめていただくとか、その辺のソフトを膨らめていただけることを期待しております。

教育長 一つ教えてください。私はこの事業の成否の鍵を握っているのは、子どもたちのために毎日一生懸命やっていたら保育園、或いは、学校の先生方がどうであるかというのが一番大事だと思っております。保育園の先生方も認定こども園や、おかや絹結プログラムの実践についての研修等を積んでいただいていると思いますが、その現状を教えてくださいたいと思います。

子ども課長 おかや絹結プログラムの実践につきましては、今年度、教育委員会等とも情報共有を進めながら、しっかりと進めているところでございます。また、昨年度、園長会の担当等が教育委員会とのやりとりの中で、園長会で情報共有をし、各園でもその情報をおろしていただいて、保育園、保育士にもしっかりと周知をしながら、実践につなげていただいております。

 認定こども園の関係でございますが、保育所保育指針という、保育園の保育士として対応していく中での指針となるものでございますが、資料の中でもありますように、この「幼児期の教育・保育のねらい」というものが、共有されたというところから始まりまして、認定こども園への部分についても保育士がしっかりと承知をしながら、今、保育を進めていただいている状況でございます。

 今年度の園長会の中でも、この保育園整備計画につきましては、園長先生方に丁寧に説明をし、認定こども園の部分についても、しっかりと保育士の方にも伝えていただいております。

 また、研修については、県で実施する研修等も頻繁に保育士が出席し、学んでいただいておりますので、しっかりと保育士さん方もご理解をいただきながら、現在お仕事を進めていただいております。ただ、これから、研修等をさらに加えていかなければならない、お知らせ等もしっかりとしていかなければいけないと思っておりますので、丁寧に対応してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

教育長 ありがとうございます。

副市長 他にご意見、ご質問等ございますでしょうか。

 (なし)

 それではただいま健康福祉部から説明のありました岡谷市保育園整備計画中期計画（素案）につきまして、内容を確認いただいたということで、よろしく願いいたします。

議題2 川岸学園構想（案）について

副市長 続きます、本日の議題の（2）であります、川岸学園構想（案）について、教育委員会から説明をお願いいたします。

【教育担当参事より説明】

私から川岸学園構想（案）について説明をさせていただきます。

以下、資料に基づき説明。

（資料③）川岸学園構想（案）

（資料1）学校施設長寿命化計画_R4劣化度調査後

（資料2）小中一貫教育

（資料3）川岸小学校整備計画の検証

（資料4）市内小中学校と保育園幼稚園の状況

（資料5）小中学校の通学区域と児童生徒数、学級数

（資料6）学校評議員制度とコミュニティ・スクール（学校運営協議会）
制度の概要

（資料7）川岸地区における幼保小中がつながる新たな学びの環境づくり
について

副市長 ただいま説明がありました川岸学園構想（案）につきまして、意見交換を行ってまいりたいと思います。教育委員の皆様には、これまでこの構想案につきまして、継続した議論、検討を重ねてこられたと思います。各委員さんから一言ずつご発言をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

草間職務代理 ずっと教育委員会でこの案について検討してまいりました。そして、県下でもこういう同じ敷地内に保育園から小学校、中学校までというのはあまり例がないと思います。

川岸、西部地区の川岸学園となっておりますが、これは全市的にとらえていただいて、先ほども地区外からという話が出ておりますし、この趣旨に賛同する生徒は一定数いて、地区外からこの川岸学園に通えるようなことは、今までだとなかなか難しい問題がありますが、ぜひ、これは岡谷市の教育の新たな一歩、その一歩を踏み出すには非常に良い機会だと思います。ぜひ地区というところではなく、全市的な中の一部のこの川岸学園ということでとらえていただいて、岡谷市の全生徒にこの学園に関心を持っていただいて、志のある子はぜひ入学できるような、そんなことを最初から計画をしていただきたいと思います。それが地区の、そして岡谷市の教育の全体の成長に繋がると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

太田教育委員 これまで教育委員の1人として検討してまいりましたので、しっかりと実のあるものとして、市民の皆さん、或いはそこに学ぶ子どもたちが、実感ができるようなものにしていく協力をぜひしていきたいと思います。

今説明がありました、最終的には私は、最後に資料7で説明がありました

イメージをしっかりと実現することが一番大事なことではないかと思っております。

もちろん、最終的には全市的にというところで広げていくという可能性を持って進めていくということですが、たまたま川岸地区に関しては、小学校と中学校が隣接をしているという非常に恵まれた環境にもあるということでもありますので、そこでしっかりと実践をしながら、こういうことができるんだ、こういうことに繋がるんだ、というイメージを全市民の皆さんに持っていただくことができれば、その先の可能性というのは、また大きく広がってくるのではないかなと思っておりますので、ぜひ、そのような形で進められるように、協力をしていきたいと思っております。

高木教育委員 普段から交流をしている小中学校がこの義務教育学校として構想していくこと、またその中で教育課程も一つとして、岡谷スタンダードカリキュラムを据えたりして、少しワクワクするような新しい教育課程が生まれて来ると思いません。

そのような中で、魅力のあるどんな学校が生まれるのだろうかというすごい期待もあります。ただ、先ほど教育長先生も、その先生方がどうであるかが一番であるということをおっしゃっていましたが、そこで実践してくださる教職員の方々の負担が、ほかの普通の小中学校より増えていくのではないかというのが一つの不安です。

小中連携、そして保育園、幼保と連携していくことになれば、幼保の先生方、それから小中学校の教職員の方々と、保護者や地域の皆さんとも連携していく中での負担も増えていくことは確かだと思います。

そういう中で、負担にならないような組織運営とか、そこに新たな人材を加えるとか、何かそういう点でも、ソフト面でも魅力のある学校、教職員の皆さんの負担も大きくなりながら、子どもに向き合っていく時間を確保していける、そういう魅力のある学校になるような、組織的な運営も考えながら、岡谷市だけではなく、他の市町村からも、岡谷はあんな学校ができていいなと思ってもらえるような、そういう学校にしていけたらいいなと思っております。

藤森教育委員 今日のこの会議、改めてご説明を聞いている中で、少し思ったことは、将来的な少子化、人口減少という少し悲観的な未来の話から出発をしていて、ただそこに何らかの対応を考えていかなければいけないということで、出てきた話ということをおもいつつ、まずやっぱり根本的にこの少子化という問題は岡谷市に限らず、国全体の話として、今、しきりに国会でも議論されておりますが、今日は市長さんがいらっしゃる会議ですので、もちろん教育的な部分で我々も色々考えていきますし、ぜひ少子化への対応という部分、総合的に考えていただけたら、嬉しいなということをおもいました。

その中で、この川岸学園構想というのは、ある意味、将来的な岡谷市の少子化対策に対しても、すごく可能性がある構想ではないかということをおもいました。

改めてですが、今、教育も地域間競争みたいなものがますます激しくなっていて、近隣では公立でも小中の一貫校ができたり、私立でも中高とか小中の一貫校ができたりという状況の中で、PTAの役をやっていた時も、市外に流出していってしまうお子さんが結構多いという話が課題になったりしたことがあります。そういった中で、やはり教育ですから、それぞれ、保護者さんにも子どもさんにも選択の自由があるので致し方ない部分もありますが、その中でいかに魅力ある教育プログラム、学校というものをハードもソフトも整備していくということが、この岡谷市にとって一つの強みになっていくと改めて思います。

少し悲観的な未来ということを先ほど言ってしまいましたが、その中ですごく可能性があって、ワクワクする一つの構想だと私も思いますし、幼保小中という、なかなか他ではない学校ができいくということ、それによって、様々な相乗効果が岡谷市全体、岡谷市の教育全体にもたらされるという可能性を考えた時に、本当にいろいろな困難はあるだろうと思いますが、それ以上に何かこうワクワクする未来、長野県の岡谷市にはこんな魅力的な学校があるんだということで、是非子どもを通わせたいとか、市外から入ってきてくれるようなご家族なんかもあったりしたら、とてもいいのではないかと考えているところです。

特に資料③の9ページのところで、これは要するに川岸パイロットモデルという形で、それ以外の市内の学校にも展開していくというこの考え方は絶対必要だと思いますし、一地域、校区ということではなくて全体的な話としてぜひ進めていていただきたいと思います。微力ながら、教育委員として協力していきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

小平教育委員 私もすごくこの構想には期待をしております。やはり少子化とか過疎化とか、少し頭の痛い問題を抱えつつ、都市部では個性ある学校とかを選べるような選択肢があると思いますが、地方でも可能であるということの前例となるような事例になればいいなと期待しております。

そのためにも、やはり多様な学びを選択できる、なるべく先進的な取組を取り入れていただけたらと思います。初めてやることというのはトラブルや大変なことがつきまとうと思いますが、それでも応援していきたいと思いますので、担当していく先生方や実際に運営されていく方は本当に大変なことがあるのではないかとと思うのですが、挫けず、それも、ぜひ前向きにチャレンジしていただきたいと思います。期待しております。

副市長 各委員さんからそれぞれお話をいただきましてありがとうございました。ここで市長さんから何かご意見、ご感想等ありましたらお願いいたします。

市長 教育委員会の皆さんにもご苦労いただきながら、川岸学園構想（案）というものを作っていただき、そして、ご意見もいただき、ありがとうございます。藤森委員さんが今ご指摘いただきましたように、人口の問題は大きな問題と

思っております。岡谷市でも人口減対策ということで色々な対策をやっており、移住だとか交流関係人口を増やそうということで努力しております、社会動態の方は昨年少しですけど効果があったと思います。自然動態の方は、少子化ということで出生数の減少が非常に悩ましい問題です。子育て世代の人たちが結婚したり、それから妊娠、出産、子育て、また教育、こういったライフステージにちゃんと合わせた支援をこれからもしっかりとしていきたいと思っております。そういったあたりも、色々な案がありましたら教えていただければありがたいと思っております。

学校の児童数生徒数の減少というのは、確かに今、色々な影響が出てきていることも事実であると思っております、部活動一つとってもそうですし、それから、先生方の数の減少ということで、先生方の負担が増えているといったこともあるわけで、こういったことを見据えながら将来の学校がどうあるべきかということ、教育委員会の方で考えていただいて、市長部局の方では、それに付随して保育園をどう考えていくかということをやってきたわけでございます。今、色々なご意見を聞く中で、どれもごもつともだと思えますし、この学園構想ができたときに、地域の活性化に貢献できるようなものであって欲しいと思えますし、また、教育、そして保育というものも、その地域の活性化に貢献できる要素が非常に大きく持っているものではないかと思えます。

小中一貫教育、それから義務教育学校ということで、まだまだ内容的には固めていかなければいけないことがあるかと思えます。幼保小中までというのはなかなか全国にも事例がないと思っておりますので、大きな作業になってくると思っております。

それでは、ここまでの協議を踏まえ、岡谷市、それから教育委員会がさらに連携を深めながら、「西部地区の整備園を川岸小学校敷地内に併設し、岡谷西部中学校と合わせて、幼保小中の学びの連続性を持つ、小中一貫義務教育学校づくりを推進していく」こととし、西部地区整備園の整備も含めた総称を「川岸学園構想」として、今後、さらにパワーアップをして進めてまいりたいと思えますが、よろしいでしょうか。

副市長 今、市長さんからお話がありました。岩本教育長先生、いかがでしょうか。

教育長 市長さん、それから教育委員の皆さんから、本当に背中を押していただけるような温かいお言葉をいただいて、またやる気が湧いてきたところでございます。ありがとうございます。

副市長 ありがとうございます。皆様から、全体を通じて何かご発言等ございましたらお願いしたいと思えますが、よろしいでしょうか。

それでは西部地区における公立の幼保連携型認定こども園の整備、さらには、川岸小学校と岡谷西部中学校を一体とする小中一貫校となります、義務教育学校づくりを総称いたしまして、「川岸学園構想」として、幼保小中の学びの連続性をもつ環境づくりを進めていくということで、教育委員会、そして市長部

局双方が確認したということによろしいでしょうか。

(異議なし)

副市長 ありがとうございます。

その他

副市長 最後にその他ですが、何かご発言等ございましたらお願いします。

よろしければ、本日のこの総合教育会議を受けまして、最後に岩本教育長先生から川岸学園構想に懸ける思いなどについてお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

教育長 ありがとうございます。それでは率直な私の思い、決意を申し上げて、まとめとさせていただきます。

人口減少や少子化の進展に伴い、地域の子どもが減少していくことは、避けて通れない現実の中、未来を担う子どもたち、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育環境をどのように作り上げていくのかは大きな課題であります。

今よりもさらに困難さが増す時代の流れや、変容する社会をそのまま受け入れるのではなく、教育委員さんのお話にもありましたように、ピンチをチャンスに変える、そんな発想も大切と思います。

その一つの答えが、小中一貫教育であり、義務教育学校への移行ではないかと思っております。さらに、一貫した育ちや学びの環境作りとして、幼保小中併設し、施設もソフトの中身もつないでいくことは、他に前例のない、地域の誇りとなる新たな学び舎の創出となります。

しっかりとした見通しのもとで、本市の子育てや教育の基盤を次の時代に繋いでいくための努力は、今に生きる我々の責務でありますので、構想が成案となりましたら、市当局としっかりと協力、連携しながら、構想の実現に向け、邁進してまいりたいと考えております。

今日は大変貴重なご意見をいただきました。教育委員会も一丸となって頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

副市長 どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議事項は終了となります。進行を事務局の方にお返しをいたします。

閉会

企画政策部長 本日は活発な意見交換をいただきまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度岡谷市総合教育会議を閉会といたします。大変ありがとうございました。お疲れ様でございました。